

日越大学メールマガジン



大学基準協会評価委員との記念撮影

日越大学、ベトナム初の国際共同認証実地調査を受け入れ

2025 年 3 月 6 日、7 日の 2 日間、日越大学は国際共同認証にかかる実地調査を受け入れました。本調査は、公益財団法人大学基準協会（JUAA）が主導する国際共同認証の一環として実施されたもので、今回は日本、台湾、タイ、ベトナムの 4 カ国から 5 名の評価委員が参加しました。また、大学基準協会および台湾評鑑協会の事務局スタッフ、さらにベトナム国家大学ハノイ校教育評価センターからのオブザーバーを含む計 11 名も視察団として同行しました。JUAA による国際共同認証の実施は、ベトナム国内では初の試みであり、本認証評価は今後、同国における他大学のモデルケースとなることが期待されています。調査では、日越大学の教育・運営体制や、開学から 10 年間の顕著な発展が高く評価されました。評価委員長は、その成長を「ハノイの奇跡」と称賛しました。さらに、3 月 11 日には、JUAA が日本の認証機関として初めて、ベトナム政府（教育訓練省）から正式な承認を受けました。これにより、JUAA は今後 5 年間にわたり、ベトナム国内における高等教育認証機関としての活動が正式に認められることとなります。この承認を受け、今回の日越大学に対する国際共同認証の結果について、ベトナム国内で求められている認証評価と同等に取り扱われる見込みです。このような取り組みを通じて、日越大学はベトナムと日本の高等教育の発展に貢献しています。

今月号の内容

- 日越大学、ベトナム初の国際共同認証実地調査を受け入れ
- 日越大学共催 茨城大学による「気候変動シンポジウム」開催
- 日越大学のリベラルアーツ教育 東京大学森山副学長をお迎えして
- 日本語教育教員研修 著者に学ぶ教科書の効果的活用方法
- 総務課長が訪日 職員研修のレビューと大学間連携の基盤を強化

特集：日越大学の取り組み
関心高まる半導体分野の人材育成

- 日系企業との MOU で築く日越大学と学生の新たな可能性
- 進学も就職も！日越大学のキャリアサポート
- ジャパンベトナムフェスティバル in ホーチミンに出席
- JICA リサーチグラント 学際研究 4 件、スタートアップ研究 6 件採択

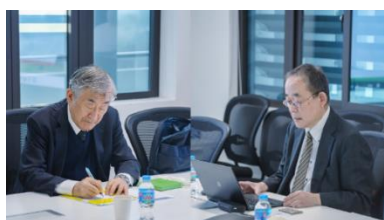
日越大学共催 茨城大学による「気候変動シンポジウム」開催

3月15日、茨城大学地球・地域環境共創機構（GLEC）主催、日越大学共催のシンポジウム「気候変動時代における減災とレジリエントなコミュニティづくりの研究ネットワーク形成」がミーディンキャンパスにて開催されました。シンポジウムにはMCCDの学生も登壇し、昨年9月にハノイなどに大きな被害をもたらした台風Yagiによる被災に関する事例紹介を行いました。日本、フィリピン、タイ、タンザニア等の各国拠点からのオンライン参加者も交え、気候変動時代の減災や地域レジリエンス向上に関する議論が活発に行われました。シンポジウムは、茨城大学の伊藤哲司教授による総評をもって盛況のうちに閉会しました。

<https://www.glec.ibaraki.ac.jp/news/post-15097/>



日越大学のリベラルアーツ教育 東京大学森山副学長をお迎えして

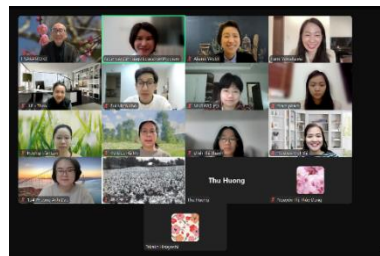


2月27日、東京大学の森山工副学長をお迎えし、日越大学の教育理念であるリベラルアーツについて意見交換を行いました。森山先生からは、東京大学におけるリベラルアーツ教育の歴史や取り組みの紹介があり、日越大学の教員からは現在の教育の状況や課題の説明がありました。午前と午後の2部構成で多様な視点から活発な議論が交わされ、最終的に、日越大学ではリベラルアーツを単独で推

進するのではなく、「持続可能性」をもう一つの軸とし、2つの概念を組み合わせた教育アプローチをとっているという結論に至りました。日越大学の古田学長は、今回の意見交換が日越大学にとって刺激的で有益な機会となったことに感謝の意を表しました。森山先生と古田学長は、かつて東京大学教養学部で同僚だったこともあり、今回の訪問を通じて旧交を温めました。

日本語教育プログラム教員研修 著者に学ぶ教科書の効果的活用方法

2月22日、日本語教育プログラム（JLE）の教員を対象に、教科書「カルテット」の効果的な活用方法を学ぶオンライン研修を実施しました。日越大学では、日本語教育の教科書として「カルテット」を採用しています。研修は、「カルテット」監修者の坂本正先生（名古屋外国語大学特任教授）のご挨拶に始まり、著者の一人である安井朱美先生（同准教授）によって進められました。参加した教員にとって、教科書の活用方法を学ぶとともに、授業デザインを今一度考えるよい機会となりました。



総務課長が訪日 職員研修のレビューと大学間連携の基盤を強化



2月28日から3月4日にかけて、日越大学総務課長のDang Thanh Tu氏が、日越大学職員の研修を受け入れた日本の大学を訪問しました。今回の訪問では、桜美林大学、法政大学、早稲田大学、拓殖大学、立命館大学の5校を巡り、各大学の関係者と日越大学職員の訪日研修（BRIDGEプログラム*）の振り返りや今後の連携について意見交換を行いました。法政大学では、職員同士が研修内容を共に考える「Co-creation Program」への発展が確認されました。早稲田大学とは、同大学と日越大学が共同で実施を予定しているダブルデ

ィグリープログラム（DD）の運営を研修の機会と位置づけ、VJU職員が日本でのDD学生受け入れやDDのプロモーション活動に関わる形で研修を行うことで合意しました。また、立命館大学とは、大学業務の専門家による短期コンサルテーションの実施について前向きな議論が行われました。今回の訪問を通じて、各大学との連携が深まり、今後の人材育成の基盤が強化されました。

*BRIDGEプログラムは、2024年12月号（Vol.70）で特集しました。こちらもぜひ併せてご覧ください。



Focus

日越大学の取り組み：関心高まる半導体分野の人材育成

ベトナム政府は半導体産業の開発に力を入れており、2030年までに半導体人材を5万人育成する目標を掲げています。また、日本でも半導体人材の需要が高まっており、ベトナムの半導体人材への期待が高まっています。今月号では日越大学の半導体分野の取り組みをご紹介します。

特集1：半導体人材の未来を考える ―九州スタディ・ミッションと意見交換



2月19日、九州の半導体企業、教育機関、政府関係者からなる「九州半導体人材育成等コンソーシアム」のスタディ・ミッションが日越大学ホアラックキャンパスを訪れ、教職員と意見交換を行いました。日越大学からは古田学長による大学紹介、Thanh先生による先端工学・技術学部・研究科の概要紹介に続き、Trinh先生が2025年秋に開設予定の学部半導体プログラムについて説明しました。また、修士課程ナノテクノロジープログラムの学生による研究発表も行われました。一方、スタディ・ミッションからは、九州における産学官連携を通じた半導体人材育成の取り組みや、九州工業大学の教育活動の事例が紹介されました。双方が半導体分野の人材育成という共通の目標を持つことから、具体的で実りある意見交換が行われました。今回の議論を通じて得られた知見が、今後の双方の取り組みに活かされることが期待されます。

特集2：熊本大学の事例に学ぶ ―半導体教育をテーマに学内セミナーを実施

2月25日、熊本大学の宇佐川毅副学長をホアラックキャンパスにお迎えし、日越大学の教職員向けのセミナーを実施しました。宇佐川先生は、九州で高まる半導体人材のニーズに対応するため、熊本大学で半導体とデータサイエンス分野の学部・修士課程を新設した経験を紹介。組織づくりや施設整備の視点も交えた具体的な事例紹介に、現在、半導体分野の教育プログラムの開発に取り組む日越大学の教職員は強い関心を寄せ、活発な質疑応答が行われました。



特集3：Trinh 准教授に聞く ―日越大学の半導体教育の取り組み

日越大学が2025年秋に開設を目指す学部半導体プログラム。開設準備のリーダーを務める修士課程ナノテクノロジープログラムのBui Nguyen Quoc Trinh先生にお話を伺いました。

―自己紹介をお願いします

私は2007年に北陸先端科学技術大学院大学で材料工学の博士号を取得し、2012年まで国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）によるERATO（Exploratory Research for Advanced Technology）のプロジェクトの専任研究員でした。2019年に日越大学の専任教員となり、現在は学部半導体プログラム準備タスクフォースのリーダーをしています。

―日越大学の半導体教育について教えてください

2025年9月に半導体の学部プログラムを開始するべく準備中です。半導体の関連分野の基礎を幅広く学んだあと、チップデザイン、生産、試験・包装の3つの専門を学び、半導体生産の全体像を理解する人材を養成する計画です。また、企業との連携に基づくインターンシップやPBL（Project Based Learning）などの実践教育もカリキュラムに盛り込む予定です。

―日越大学の半導体教育の特長はどのようなところですか？

コースワークと実習の比率を50:50としており、実践的な教育を重視しています。また日本、台湾、韓国、アメリカ等の海外の企業と連携した教育を展開し、奨学金や就職の機会も多く用意したいと考えています。日越大学の半導体分野の取り組みは始まったばかりですが、これからも外部のパートナーと協力し、教育・研究活動を進めていきます。



日系企業との MOU で築く 日越大学と学生の新たな可能性

日越大学では、日系企業との連携、協力を通じた教育・研究活動の質の向上を目指しています。3月には、日越大学の教育方針にご賛同いただける日系企業3社、株式会社キンセイ産業、Daiwa Living Vietnam Co., Ltd.、ONE-VALUE 株式会社との協力覚書（MOU）を締結しました。株式会社キンセイ産業との協定では、学生は群馬県でのインターンシップに参加することが可能となります。産業廃棄物焼却プラントのビジネス環境や労働文化に触れ、それに適応する能力を養い、異文化理解、言語やコミュニケーションスキルの向上などが期待されます。Daiwa Living Vietnam Co., Ltd. は、インターンシップ、セミナー、採用などを通じた支援の他、D-Works Place（コワーキングプレイス）利用時の学生向けインセンティブプログラムの提供も予定されています。また、ONE-VALUE 株式会社との連携では、企業からのゲストスピーカーやインターンシップの受け入れ等、産業界と連携した教育活動を推進していく予定です。



(株)キンセイ産業 金子啓一氏 (左)



Daiwa Living Vietnam との署名式
D-Works Place には学生も来場



ONE-VALUE(株) Ms. Dung Nguyen (左)

進学も就職も！日越大学のキャリアサポート



日越大学では学生のキャリア形成支援に積極的に取り組んでいます。その一環として、3月14日に、学内進学説明会および就職希望者を対象としたワークショップがそれぞれ開催されました。進学説明会では、修士課程社会基盤プログラム（MCE）および同気候変動・開発プログラム（MCCD）の幹事大学である東京大学、茨城大学の教員が登壇し、それぞれのプログラムの概要や進学の魅力について説明しました。また、就職を希望する学生向けワークショップでは、日系企業で就職を目指す学生を対象に、履歴書の書き方や日本のビジネス文化について学ぶ場が設けられました。本ワークショップは学生団体「日越文化クラブ」と「Academic and Research Club」が企画し、学生の視点で必要な知識やスキルの向上を目指したものです。日越大学の教員や JICA 専門家の協力により、実践的かつ専門的な内容が盛り込まれました。

ジャパンベトナムフェスティバル in ホーチミンに出展

3月8日、9日の2日間、ホーチミン市で「第10回 ジャパン ベトナム フェスティバル in ホーチミン」が開催され、JICA ブースにおいて日越大学の紹介を行いました。イベントの来場者は昨年を上回る43万人に達し、日越大学のブースにも1,600人以上が訪れました。ブースでは、優秀な人材を求める日系企業の担当者から採用に関する相談が寄せられたほか、日本に関心のある学生からは入試や教育プログラムについての質問が寄せられました。ベトナム南部の企業、教育関係者、高校生など、さまざまな方に日越大学の特色や取り組みを知っていただく良い機会となりました。



JICA リサーチグラント 学際研究 4 件、スタートアップ研究 6 件採択

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクトでは、日越大学の教員・研究者の研究能力向上を目的とした研究助成を実施しています。4 回目となった今回の募集では、異なる分野の研究者による共同研究を対象とした「学際研究」と、新しく採用された教員向けの「スタートアップ研究」の 2 つのカテゴリーを新設しました。学内審査では様々なコメントが出ましたが、申請者による研究計画の修正を経て、最終的には学際研究 4 件、スタートアップ研究 6 件が採択されました。当プロジェクトでは、これからも日越大学の研究能力向上を支援します。

採択された研究プロジェクト一覧

No	Category	Project title	PI
1	Interdisciplinary	Advanced Green Materials: Pioneering Sustainable Development	Tran Thi Viet Ha
2	Interdisciplinary	Studying and developing of Hydrogel Preparations (HPs) carrying nanomelanin and secretomes from deer antler stem cells for wound healing	Nguyen Dinh Thang
3	Interdisciplinary	Re-visioning Internationalization of Curriculum towards Culturally Responsive Teaching in Vietnam's Higher Education	Luong Minh Phuong
4	Interdisciplinary	Developing research methodologies and network for system sustainability in the context of climate change	Nguyen Thi Hoang Ha
5	Start-up	Legal research on enforcement of foreign arbitration awards in Vietnam - Towards improving the transparency and effectiveness of the international commercial arbitration mechanism for Japanese investors in Vietnam	Vu Thanh Thuy
6	Start-up	Multiphysics investigation of 3D printing molded fiber screen applied in molded fiber manufacturing.	Le Kim Quy
7	Start-up	Research and development of a portable 3D human gait estimation system	Duong Huu Toan
8	Start-up	Study on the Issues of Articulation for University Students Who Have Learned Japanese Before Entering University- Current Situation and Proposed Solutions	Le Cam Nhung
9	Start-up	Population genetics and ID identification of estuarine oyster (<i>Crassostrea ariakensis</i>) in Vietnam	Vu Van In
10	Start-up	Research On VJU's Japanese Education Program For Fate Students Towards Improving The Curriculum Of Japanese Language Education	Nguyen Thi Thu Huong

人事往来

【着任（2025 年 3 月）】

- ・諸橋美千代：サブチーフアドバイザー

【離任（2025 年 3 月）】

- ・熊谷真人：チーフアドバイザー
- ・辻本温史：サブチーフアドバイザー
- ・小池基：質保証/教職員研修

■日越大学の情報発信

日越大学ホームページ

<https://vju.ac.vn/>

日越大学 Facebook

<https://www.facebook.com/vnu.vju/>

JICA プロジェクトページ（ODA 見える化サイト）

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1901195/index.html>

■お問い合わせ

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト メルマガ編集部

【メール配信停止・変更】

配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、上記お問い合わせ先までメールにてご連絡ください。

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト